

# 世界一高い原発 「もんじゅ」

28万kw発電 **もんじゅ事業費1兆225億円** (1980~2015年度)  
 [内訳]建設費5886億円 (1980~1994年度) 運転・維持費4339億円 (1989~2015年度)  
 事業費以外の関連費用合計 **1021億円**

2015年度もんじゅ年間維持管理費  
 安全対策・点検経費159億円  
 設備の維持管理経費38億円  
 人件費30億円  
 固定資産税12億円  
 合計**239億円**

[内訳] 原型炉建設準備費47億円 人件費533億円 (1974~2014年度)  
 固定資産税412億円 (1999~2014年度) 安全対策に係る改修工事費29億円  
 建設費は当初見積もり360億円、建設完了時には5,900億円。  
 1995年ナトリウム火災事故以後20年間停止。

停止中も年間維持管理費は**239億円**、1日当たり**6500万円**  
 ただの空き部屋、物置施設**RETF支出額835億円** (1988~2014年度)  
 \*RETF=「もんじゅ」の使用済燃料を用いた再処理研究開発施設

**10225+1021+835=1兆2081億円**  
**今まで1兆2千億円**使って実現見込みなし！利益ゼロ、損失無限！

金額出典元 日本原子力開発機構hp  
<http://www.jaea.go.jp/04/turuga/anncer/page/kaitou/kaitou2-2.html>



## 悪が栄える開栄丸

もんじゅのための燃料運搬船

三井造船玉野事業所で2006年8月に竣工 全長100m、5000トンの船 (三井グループが作った船)  
 開栄丸は建造以来 **4** 回しか使われていません。

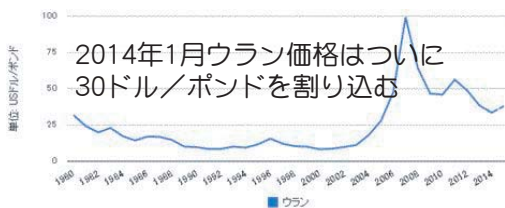
**この使われない船のために年間12億3200万円税金を使用。2015年末、文科省も廃止決定！**

## 高速増殖炉サイクルの破綻！

### 高速増殖炉サイクルの研究開発投資効果(改定版)

平成17年1月28日

#### 核燃料サイクル開発機構



「もんじゅ」は20年停止。六ヶ所再処理工場はトラブル続出で完成見通したはず  
 2015年11月、23回目の完成延期、実用化時期は不明、事業計画では完成が延期  
 すればするほど損失が膨らみ利益回収が不可能になります。

高速増殖炉の投資効果について2005年に機構が左記のシナリオを作成しまし  
 た。このシナリオの予想は大きく外れています。

#### 現実と違う、シナリオのウラン価格上昇予測

このシナリオは「ウラン価格が暴騰していく」という前提で組み立てられていま  
 すが、ウラン価格は2014年に1ポンド30ドルを割り込むまで下がり、福島事故  
 以後の世界各国の脱原発政策もウラン価格を押し下げています。高速増殖炉が利  
 益を生むにはウラン価格がプルトニウム価格より常に高いことが必要で、ウラン  
 価格が安ければ再処理した高価なプルトニウム燃料を使う理由はありません。

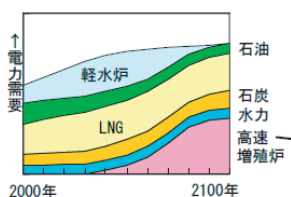
#### ありえない再生可能エネルギーゼロという構成の前提

このシナリオの将来の電源構成図には再生可能エネルギーがなく割合はゼロで  
 す。現在ドイツ、スペインでは再生可能エネルギーの発電割合が原発を抜き一番  
 多くなっています。日本でも福島事故以後再生可能エネルギーが爆発的に増え、  
 太陽光発電への投資額が世界一になりました。世界各国で、すでに電力の一部を  
 再生可能エネルギーが担い、今後は発電割合で最も多くなることが予想されてい  
 ます。その再生可能エネルギーが全く入っていない電源構成を基に計算した投資  
 効果研究など全く意味がありません。この図の高速増殖炉を全て再生可能エネル  
 ギーに置き換えた方が現実に近いものが作成できます。

再処理費用は年々値上がりし下がりません。アメリカの研究者の試算ではMOX  
 燃料はウランより13倍高い燃料で (**ウラン 25万9千円/kg MOX  
 356万8千円/kg**) こんな高い燃料で発電すれば日本の電気代は今の10倍以上  
 になります。放射性廃棄物から燃料を作るという夢物語は人造石油と同じでコス  
 トがかかりすぎます。投資効果はなく損失だけが膨んでいきます。

#### 高速増殖炉サイクルの研究開発投資効果評価の概念

電源構成例A (高速増殖炉あり)



電源構成例B (高速増殖炉なし)

